

名前: タイラス・トレス  
授業: JAPN 320SL: サービスラーニング  
教員: さいとう先生  
大学: カリフォルニア州立大学モンテレーベイ校  
2018/12/2018

## サービスラーニングのエッセイ

### 概論

今学期で、私のサービスラーニングの授業のために、オールドテラス小学校の放課後のプログラムにボランティアするであった。プログラムの題名はCPY、CPYは「COMMUNITY PARTNERSHIP FOR YOUTH」の短縮形である。CPYの目標は「充実した成功を収めるための良い選択をする能力を奨励する、安全で構造化された健康的な環境を幼い子供たちに提供する」。色々なサイトでボランティアの人が子供たちに手伝った、私の大学選考に基づき、私は三大学生と一緒に日本の言語と文化を教えた。私のグループは毎週のレッスンプランを作った。例えば、一週間で日本の動物声のレッスンが使って、生徒たちに日本語の様々な動物となき声を紹介した。これらのようなレッスンプランは、子供たちに文化的および言語的意識に関する積極的な教訓を教えるのに役立つだと思ふ。学期を通して私たちは、ボランティアするとの関連で、クラスのSLO'S「SERVICE LEARNING OUTCOMES」に見てサービスの意味について話し合いと勉強にもした。四つのSLOがある、「自己と社会の関心」、「サービスと社会的責任」、「コミュニティと社会正義」、「多文化コミュニティビルディングと市民参加」。秋の学期をまもなく終わるだから、このエッセイでサービスラーニングの意味とSLOの意味を復習する。後で、各セクションには、SLOSが実際のシナリオにどのように関係しているかも含まれる。

### SLO1: 自己と社会の関心

最初の部分は自己と社会の関心。これは一つ目のSLO「SELF AND SOCIAL AWARENESS」である。このSLOの目標は、学生たちが自分の個人的と職業的アイデンティティの社会的文化的と日常的な側面の理解と分析を深めるである。このSLOは二つに分裂し

た、AとB部分がある。Aの分はコミュニケーションのアイデンティティ概してを理解することになる。Bの文は自己自身のアイデンティティを復習と理解することになる。

Aについては、サービスの人たちは自己のアイデンティティと子供たちのアイデンティティには思いやりにしなければならないので、この目標は大切だと思う。クラスの話し合いから、事故と社会アイデンティティも勉強した。皆は自分の生活で、特権がある。特権はすべて責任を伴う。コミュニティの幸せにとって、皆が自分の特権が他の人に害を及ぼさないように対策を講じなければならない。時々で、自己の特権はあなたが助けたい人を差別できる。その理由で差別と特権は危ない。現実には、コミュニティを傷つけることも自分を傷つける。私たちは個人として、地域社会の一部だけど、私たちがグループのアイデンティティに資する。

SLO1のB部分については、私のサイトでから二つの例がある。私のボランティアの小学校で、その人口の大半はメキシコのアメリカ系でいる。アメリカの文化とは対照的に、小学生たちの文化はもっとメキシコ人の文化らしいなっているだと思う。私たちは小学生たちと色々な会話から、これが明らかだ。アメリカ文化のイメージに比べてに、この状況の中には小学生たちの文化はちょっと違う。小学生は自分のアイデンティティを理解することが大切。二つ目の例は、私のアイデンティティを理解することが大切である。アイデンティティを勉強にしても、私の経歴から自己のステレオタイプ、価値観、推定をある。このため、教える時に差別や特権を考えてが必要。レッスンプランを作った時で、メキシコとアメリカと日本の文化を比べることを頑張った。これをしているから、小学生は自己の文化に関係するについて考えることを許される。目標は、小学生が他の文化の見について方包容力になる。クラスの話し合いから、特に差別の防止に、国際的な世界にグローバルの見方は大切である。ボランティアはコミュニティにこのタスクを支援する責任があると思う。

## **SLO2：サービスと社会的責任**

SLO2はサービスと社会的責任についてである。このSLOの目標は大学生は、自分の訓練分野における専門家の社会的責任についての理解を深め、より大きな社会幸福への貢献に貢

献するである。このSLOは三つに分裂した。一つ目の目的は自己自身とコミュニティと社会の関係を明瞭な説明できることになる。二つ目の目的は様々な専門分野は社会の中に短期と長期でどう役立つのかである三つ目の目的は社会について倫理的行動の批判的理解を育むである。

SLOの一つ目の目的にとって、自己とコミュニティと社会の関係について私の経験から、分かったになる。コミュニティの中に私は役目があるので、私が提供できるものについて考える必要があった。私の大学の選考は日本語だから、国際的な物を教えることができる。私の貢献だけでなく、私に恩恵を受けるだけでなく、コミュニティも恩恵を受ける。一週間に一度、私は小学校で教えることができるとコミュニティについてを学ぶこともできるになった。これはSLO1に似ているけど、この重視はサービスの責任である。大学の教員のアドバイスから、私のサービス力を改良続けてできる。彼らの職業的な意見は次の段落に関係である。

短期的には、専門家の勉強から、他の人はもっと面白いものを勉強になる。例えば、日本の言語、文化、料理、社会の問題、と他のものを勉強したので、普通な場合からの人々は多分日本の社会を勉強のチャンスがない。このため、専門家の人はボランティアの活動から話し合いを始める。長期的には、色々な人々は興味を持つことをになっている。興味を持つようになっていたら、もっと多く話し合いが起これる。もっと多く話し合いが起これたら、もっと多く人が勉強のチャンスがあつて。もっと多く勉強の人があつたら、もっと多く社会的の問題が解き明かす。この例から、勉強人のボランティア活動からの長期的な社会的に利益を見れるになる。このため、長期的な社会的に利益は指数関数のようにでしょう。それは冗談であつたけど、それについて考えて下さい。それは良い長期的な社会的に利益だつたけど、危ないものである。

ボランティア活動は小さく見えますが、実はボランティア活動は地域社会に大きな影響を与えている。それでは一つの大学生のボランティア活動は大きな影響もできる。その理由ためにボランティア活動の倫理的行動は大切です。大学生はボランティア活動のサイトで怠惰な行動をしたら、未来の社会的の問題が解かない。万が一、大学生、専門家は悪い行動されて

社会を手伝ってにならない。危ない状況ですけど、倫理的行動団体が非道徳的行動の対策を監督するがある。CPYは一つである。CPYは大きな団体ではないのに、非道徳的行動の対策を監督する、正しい方向に進む大事な一歩です。しかし、普通な場合からの人は、ボランティア活動が社会に影響してを知るのチャンスがない。ボランティア活動やサービ斯拉ーニングのクラスから、私はこれについてを理解できるようになった。これらの観念はとても大切である、社会正義の観念にも関係する。

### **SLO3 : コミュニティと社会正義**

SLO3はコミュニティと社会正義についてである。目標は、大学生は分野や専門分野における専門家や機関の行動が、地域社会や社会について公平と不平等の両方をどのように醸成するかを批判的理解できるである。このSLOは二つに分裂である。最初の部では社会正義の枠組みを通じて、特定の地域社会の人口動態、社会文化的動態および資産を調査できる。次の目標は全身的な不平等、差別、社会的な不公平の中で、コミュニティの問題を分析もできる。SLO2にととても似ているのように、このSLOもコミュニティサービスが社会に及ぼす肯定的な影響を示して。私は社会への肯定的な影響は公平と平等が広がっていると思う。これは今日の教室でさえ見ることができる。

大学生たちは小学生に他の文化を教えてで公平と平等の概念を培っている。学生にこれらの新しい概念や世界的な文化を教えることは、新しいトピックに近づく方法を見事に変え、新しい文化的コンセプトへの無関心や差別を少なくし始めました。生徒は誤った情報や以前の知識不足のために紛争が発生する可能性を最小限に抑え、より開放的にアプローチする新しい文化を理解することがでる。これらの平等の利益は今日でも社会に存在している。複数の文化を理解している人は、生産的な関係を築く可能性が高くなるとより大きな社会のために働くことさえある。ですから、社会をより良く助けるためには、私たち自身のコミュニティの中で始める必要があるだと思ふ。コミュニティと関わりをより良い深めるも必要である。これらの色々な概念から複数の文化のコミュニティを築くことがいいである。

#### **SLO4：多文化コミュニティビルディングと市民参加**

SLO4は多文化コミュニティビルディングと市民参加についてである。目標は、学生は多様な個人、団体、組織から学び、敏感で包括的であり、公正で公平で持続可能なコミュニティを構築できるである。コミュニティとのボランティアの活動における異文化コミュニケーションスキル、相互主義、敏感さを実証できる。色々な方法でコミュニティに参加し、参加し、退場できる。コミュニティでより多くの平等と社会的正義を創造するために働く個人的、専門的、制度的戦略、政策、実践を開発し、実施もできる。SLO2とSLO3に関係している、市民参加は大きな目標である。自分のボランティア活動の経験は他の市民と参加の方法を学べるために良い練習であった。コミュニティの時間を使うで、平等と社会的正義を創造するために上手な方法を開発できる。

良い例は最初の授業で私のグループが分かりやすいなレスンプランをつくれなかった。子供たちはよく気が散っていた。子供たちは授業で聞いていなかったけど、しかしだんだんいいになっている。小学生はだんだん丁寧になっていること理由は、私たちのサービスグループはもっと良いレスンプランを作り行ってだと思ふ。これは全部のSLOの目標でしょう。

#### **纏め**

全体にはSLOの目的は大学生のボランティアが未来で行動をすること続けている欲しいである。自己と社会の関心の概念をもっと勉強する続けている欲しいである。社会的責任について考えるである。社会正義を標榜する。多文化コミュニティを築くことが必要である。ボランティア活動も地域社会に大きな影響を与えてできる。